

目黒区サッカー協会・少年の部 フットサル競技規則(2017年度改正)

第1条 ピッチ

大きさ

- ・ピッチのサイズは、30m×20mを標準とするが、各使用会場に一任する。
- ・ゴールは、3m×2mとし、転倒防止のための、仕組みを施す。

ピッチのマーキング

- ・センターサークルの半径は2.5mとする。
- ・ペナルティーエリアの半径は、ゴールポストの外側から5mとする。
- ・ゴールラインの長さが15m以上取れない場合、ペナルティーエリアの半径は4mとする、この場合ペナルティーマークは5mで、ペナルティーエリアのライン上にない。
- ・交代ゾーンは、ハーフウェイラインから4m離して、4mの幅で両ベンチの前に設ける。
- ・テクニカルエリアは、競技の展開を邪魔することを避けるため、タッチラインから75cm以上離す。
- ・コーナーキックを行うときに守備側競技者に離れる距離を確実に守らせるため、コーナー
- ・アークから4m離れたところのピッチの外側に、ゴールラインに対して直角のマークをつける。
- ・すべてのラインの幅は、8cmが望ましい。
- ・第2ペナルティーマークは設けない。

第2条 ボール

ボール

- ・フットサル3号球の検定球を用いる。
- ・ボールは、ゴールのクロスバーの高さから落下させたとき、最初のバウンドが50cm以上、65cm以下とする。

第3条 競技者の数

競技者

- ・登録人数、交代人数は、各大会規定によるものとする。
- ・退場もしくは負傷等により、いずれかのチームの競技者の数が、3人未満になった場合、試合を放棄しなければならない。

交代の進め方

- ・交代要員は、競技者と区別するためにビブスを着用する。
- ・交代は、インプレー中またはアウトオブプレー中に自分の交代ゾーンで行う。
- ・交代要員が交代して退く競技者にビブスを手渡した後に自分のチームの交代ゾーンから入ることで完了する。(この時に、ビブスを投げたり、落としたりして交代することは正しい進め方ではない)
- ・いずれの交代要員も、主審・第2審判に通知することなく、また、試合の停止を待つことなく、ゴールキーパーと入れ代ることができる。

- ・いずれの競技者も、ゴールキーパーと入れ代ることができる。この場合、アウトオブプレーの時に、主審・第2審判に交代する前にその旨を通知しなければならない。
- ・その際、主審・第2審判は交代が完了するのを待って試合を再開する。
- ・チーム役員と交代要員は、テクニカルエリア内にとどまる。

第4条 競技者の用具

安全

- ・競技者は、自分自身または他の競技者に危険な用具を用いる、あるいはその他のもの身につけてはならない。(あらゆる装身具、ネックレス、指輪、プレスレット、イヤリング、皮革でできたバンド、ゴムでできたバンドなどを含む)
- ・ヘッドギア、フェイスマスク、また膝や腕のプロテクターで危険でないものは、身につけることができる。スポーツめがねは、競技者を傷つけないものであれば、認められる。
- ・ヘッドカバーを着用する場合は、黒または、ジャージーまたはシャツの主たる色と同じでなければならない。(同一チームの競技者が着用する場合、同色のものとする)
- ・**審判員も装身具を身につけることはできない。(試合を進めるために必要なものは除く)**

基本的な用具

- ・袖のあるジャージー、またはシャツ
 - ・アンダーシャツを着用する場合、その袖の色は、ジャージー、またはシャツの袖の主たる色と同じでなければならない。
- ・ショーツ
 - ・アンダーショーツを着用する場合、その色はショーツの主たる色と同じでなければならない。ゴールキーパーは、長いトラウザーズをはくことができる。
- ・ストッキング
 - ・テープまたは同様な材質のものを外部に着用する場合、着用する部分のストッキングの色と同じものでなければならない。
- ・すね当て
 - ・ストッキングによって完全に覆われ、ゴム、プラスチック、または同質の適切な素材でできていて、それ相応に保護することができるもの。
- ・ビブス
 - ・競技者またはゴールキーパーがビブスを着用する場合、交代要員が着用するビブスはそれらのもものと異なる色でなければならない。

第5条 主審・第2審判

主審と第2審判

- ・フットサル4級またはサッカー4級以上の資格を有し、目黒区フットサル競技規則を理解しているもの、またフットサルの試合(練習試合を含む)の審判経験があるものとする。
- ・試合に関して、競技規則を施行し、試合をコントロールする。

主審

- ・タイムキーパーの任務を担い、試合の記録をとる。
- ・基本的に、交代ゾーンがある側のタッチラインのところにいる。
- ・ホイッスルを用いて、試合をコントロールする。

- ・第2審判との間に不一致があった場合、主審の判定が優先される。
- ・試合報告書の提出義務はないものとする。

第2審判

- ・基本的に、両チームベンチ、交代ゾーンに向かい合う側のタッチラインのところにいる。
- ・ホイッスルを用いて、試合をコントロールする。(フラッグの用いて合図してもよい)

第6条 副審

第3審判、タイムキーパー

- ・第3審判、タイムキーパーは採用しない。

第7条 試合時間

プレーの時間

- ・**試合の時間は、8分・3分・8分の16分を基本とするが、各大会規定によるものとする。**
- ・ランニングタイムで行い、競技者の負傷の程度の判断、および負傷した競技者の治療のためのピッチからの搬出については、時間の空費(アディショナルタイム)として扱う。また、アウトオブプレーの際にゴールキーパーの交代があったときも時間の空費として扱う。
- ・タイムアウトは採用しない。

第8条 プレーの開始および再開

試合前

- ・コインをトスし、勝ったチームが試合の前半に攻めるゴールを決める。(ピッチの自陣側にベンチが来るようにする)
- ・他方のチームが、試合開始のキックオフを行い、トスに勝ったチームは、試合後半開始のキックオフを行う。
- ・試合の後半には、両チームはエンドを替え、反対のゴールを攻める。(ハーフタイムにベンチもかわり、常に自陣側の交代ゾーンで、交代を行う)

キックオフ

- ・キックオフからは、直接得点することができない。

ドロップボール

- ・ドロップボールから、直接得点することができない。
- ・ボールが相手競技者のゴールに直接入った場合、ゴールクリアランスがあたえられる。
- ・ボールがそのチームのゴールに直接入った場合、コーナーキックが、相手チームに与えられる。

第9条 ボールインプレーおよびボールアウトオブプレー

屋内のピッチ

- ・屋内のピッチで、ボールが天井に当たった場合、ボールが天井に当たった天井下の場所に最も近いタッチライン上から、相手チームのキックインで試合を再開する。

第10条 得点の方法

得点

- ・ F I F A フットサル競技規則の通り。

第 1 1 条 オフサイド

- ・ フットサルにオフサイドはない。

第 1 2 条 ファウルと不正行為

直接フリーキック

- ・ ファウルの累積は行わない。
- ・ ファウルが不用意であると判断された場合、懲戒の罰則を与える必要はない。
- ・ 無謀な方法でプレーした競技者は、警告されなければならない。
- ・ 過剰な力を用いた競技者には、退場が命じられなければならない。

間接フリーキック

- ・ ゴールキーパーから出たボールが、直接ハーフウェーラインを越える。この場合、ハーフウェーライン上の**任意の地点から**間接フリーキックが行われる。
- ・ ゴールキーパーから出たボールが、相手競技者に触れるかプレーされる前に、味方競技者から意図的にゴールキーパーに向けてプレーされたボールを自分自身のハーフ内で受ける。(バックパスの禁止)
- ・ **低学年（1・2年）の試合においては、味方競技者から意図的にゴールキーパーに向けてプレーされたボールを自分自身のペナルティエリア内で直接手、または腕で受けた場合のみ、バックパスの反則とする。**
- ・ ゴールキーパーが自分自身のハーフ内で、4秒を超えてボールを手や腕、または足でコントロールする。

ペナルティーキック

- ・ ボールインプレー中に、競技者が自分のペナルティエリア内で、直接フリーキックとなる反則を犯した場合、ボールの位置に関係なく、ペナルティーキックが与えられる。

懲戒の罰則

- ・ イエローカード2枚で退場、レッドカードで退場。
- ・ 警告となる反則、退場となる反則は、F I F A フットサル競技規則の通り。

第 1 3 条 フリーキック

フリーキックの位置

- ・ すべての相手競技者は、ボールがインプレーとなるまで4m以上ボールから離れる。

シグナル

- ・ 主審・第2審判は、一方の腕を頭上に上げて、間接フリーキックであることを示す。キックが行われ、ボールが他の競技者に触れるか、または、アウトオブプレーになるまで、腕を上げ続ける。
- ・ 反則の累積のシグナル、得点者の番号を知らせるシグナルは行わない。

第14条 ペナルティーキック

ボールと競技者の位置

- ・ボールは、ペナルティーマーク上に置く。
- ・キッカーは、確実に特定される。
- ・キッカー以外の競技者は、ピッチの中で、ペナルティーエリアの外、ペナルティーマークの後方、ペナルティーマークから4 m以上離れる。
- ・守備側のゴールキーパーは、ボールがけられるまで、キッカーに面して、両ゴールポストの間のゴールライン上にいなければならない。
- ・ペナルティーキックの助走中にフェイントすることは認められる。しかし、競技者が一旦助走を完了した後にボールをけるフェイントについては、第14条に違反するとみなされ、それを行った競技者は警告され、ペナルティーマークから守備側チームの間接フリーキックで再開される。

第15条 キックイン

キックイン

- ・キックインから直接得点することはできない。

ボールと競技者の位置

- ・ボールをける競技者は、いずれかの足の一部をタッチライン上、またはタッチライン外のピッチ面につけボールがピッチから出た地点、またはピッチ外で、その地点から25 cm以内の場所から、必ず手で静止したボールをける。
- ・ボールはける準備ができてから4秒以内にける。
- ・ボールはピッチ内に入ったときにインプレーとなる。
- ・相手競技者は、ピッチ内にいて、キックインを行うタッチライン上の場所から、4 m以上離れる。
- ・キックインからのボールがピッチに入らなかった場合、主審・第2審判は相手チームの競技者にキックインを行うように命ずる。

第16条 ゴールクリアランス

ゴールクリアランス

- ・ゴールクリアランスからは、直接得点することができない。

ボールと競技者の位置、進め方

- ・ボールは、ペナルティーエリアの任意の地点から、守備側のチームのゴールキーパーによって投げられる。
- ・ゴールキーパーは、ゴールクリアランスを行う準備ができてから4秒以内に行う。
- ・ゴールキーパーによって、ペナルティーエリア外に直接投げ出されたときインプレーとなる。
- ・相手競技者は、ボールがインプレーになるまで、ゴールクリアランスが行われる、ペナルティーエリア外にいなければならない。
- ・ゴールクリアランスされた後、ボールが競技者に触れる、あるいはピッチ面に触れる前に、ハーフウェーラインを越えたときは、相手側チームにハーフウェーライン上の**任意の地点から**の間接フリーキックを与える。
- ・ボールがインプレーになって、他の競技者が触れる前に、ゴールキーパーがボールに再び触れた場合、違反の起きた場所から行う、間接フリーキックが相手チームに与えられる。

第17条 コーナーキック

コーナーキック

- ・相手チームのゴールに限り、コーナーキックから直接得点することができる。
- ・ボールは、ゴールラインを越えた地点に最も近い方のコーナーアークに置く。
- ・相手競技者は、ボールがインプレーになるまで、ピッチ内で、コーナーアークから4 m以上離れる。
- ・キックを行う競技者は、キックの準備ができてから4秒以内に行わなければならない。
- ・ボールは、けられて移動したときにインプレーとなる。
- ・コーナーキックが、4秒以内に行われなかった場合、ゴールクリアランスが相手チームに与えられる。
- ・コーナーキックの進め方及びボールの位置に関するその他の違反に対してはキックをやり直す。この際、4秒のカウントはリセットされない。

審判員のためのガイドライン

競技者、交代要員の退場⇒競技者の補充

- ・交代要員は退場になった競技者に代わることができ、退場後2分間完全に経過したときに、審判の承認を得てピッチに入ることができる。
- ・ただし2分間経過する前に得点があった場合この限りではなく、その場合次の条件が適用される。
- ・競技者が5人対4人とき、5人のチームが得点した場合、4人のチームは5人目の競技者を補充できる。
- ・両チームともに4人、3人の競技者でプレーしているときに得点があった場合は、両チームとも同数の競技者のままとする。
- ・5人対3人、または4人対3人の競技者でプレーしているとき、人数の多いチームが得点した場合、3人のチームは、1人だけ競技者を補充できる。
- ・人数の少ないチームが得点した場合には、そのままの人数で試合を続ける。

ペナルティーマークからのキック・進め方

- ・主審はキックを行うゴールを選ぶ。
- ・コインをトスし、トスに勝ったキャプテンのチームが先にけるか後にけるかを決める。
- ・主審は、キックの記録をつける。
- ・両チームが3本ずつのキックを行う。
- ・キックは両チーム交互に行う。
- ・両チームが3本のキックを行う以前に、他方が3本のキックを行っても上げることができない得点を一方のチームがあげた場合、以後のキックは行わない。
- ・それぞれのキックは、異なる競技者によって行われる。キックを行う資格のある競技者の全員が、それぞれ2本目のキックを行う前に、最初のキックを行わなければならない。
- ・すべての競技者、交代要員にキックを行うことが認められる。※試合終了時にベンチにいても。
- ・一方のチームの競技者数が相手チームより多い場合、競技者のより多いチームは相手競技者数と等しくなるように競技者数を減らす。
- ・ゴールキーパーは、どの競技者とでも交代することができる。
- ・キックを行う競技者とゴールキーパー2人を除くすべての競技者は、キックの行われる反対側の

ハーフにいる。第2審判がこのハーフ内にいる競技者を管理する。

- ・主審は、ゴールライン上のベンチから遠いサイドに立ち、すべてのキックを管理する。
- ・キッカー側のゴールキーパーは、プレーの進行を妨げないペナルティーエリアの外の主審側にいる。

※ゴールキーパーが、ベンチに近い側にいると片方のチームのベンチの指示を受け易い不公平があるため。

延長戦

- ・コインをトスし、勝ったチームが延長戦前半に攻めるゴールを決める。
- ・他方のチームが延長戦開始のキックオフを行う。
- ・トスに勝ったチームは、後半開始のキックオフを行う。
- ・後半には、両チームはエンド及びベンチを替え、反対のゴールを攻める。
- ・延長戦の前後半の時間は大会規定によって決定される。

キックインにおけるボールの置き方について

- ・主審・第2審判は、競技者がボールを手で確実に静止させるように、キックインを行う前に声をかける等の処置をする。